

富山市総合計画審議会第5回安全部会 概要

場所：富山市役所議会棟8階 第4委員会室

日時：平成18年10月24日（火）

10：00～11：50

1 開会

2 部会長あいさつ

竹内部会長あいさつ

基本計画としては2回部会があるので、色々な角度からご意見をいただきたい。

3 議事

・総合計画前期基本計画（案）について

<概要>

（部会長） まず、資料について説明をお願いしたい。

（事務局） 資料について説明

（部会長） 特に安全部会の部分を説明してもらったが、これまでの皆さんのご意見を踏まえて文章が整理されている。他の部分でも結構だが、安全の部分を中心にご意見をいただきたい。

（委員） 安全というものは重要であり、広範にわたる。この計画を見ると非常に細部にわたって書いてある。ただ、専門的な内容のものもある。この案はどのような過程で策定されたのか。

（事務局） 庁内各部局から、現状や将来像の原案を出してもらい、全体を調整してとりまとめている。

（部会長） これまでの安全部会の議論も加味されてまとめられている。

（委員） 10頁に「市民が安全に暮らせるまちづくりを進めます」と書いてある。市民が願っているのは、安全で犯罪のない明るい社会であることから、「安全で犯罪のない明るい社会を目指して安心して暮らせるまちづくりを進めます。」と入れれば、安全が明確に示されるのではないか。

外国の観光客の誘致やグローバル化する社会の中で、語弊があるかもしれないが、外国人犯罪がこれから増えてくるという考え方も出てくるのではないか。富山市は、港・空港・新幹線があり、県の玄関としての役割があると

いう点から言っても、犯罪の抑止は強調していかなければならないと思っている。

(部会長) 今の発言は、10頁の最後の「市民が安全に暮らせるまちづくり」をもっと力強い表現にして欲しいという事か。

(委員) ここに入れていただければなお、明確になると思われる。

(委員) 昨日の全体会でも発言したが、安全よりも危機管理体制の整備の方が全部会の横断的性格を持つことから、施策の方向の横出しが可能であれば、全ての政策に係っている21頁の「新しい富山を創る協働のまち」の「新しい「行財政システムの」確立」の中に危機管理体制の整備を入れはどうか。

基本構想の中には、森林の公益的機能という文言が明記されているが、118頁の中に是非、公益的機能という文言を盛り込んではどうか。また、市民に期待する役割について、総花的な一般的なものではなく、もっと踏み込んだ記載の仕方もあって良いのではないか。森が荒れていて大変だという事が社会的問題となっており、安全な市民生活を維持していくという意味からも、市民に期待する役割の中に、「森林が持つ「公益的機能」の重要性について理解する」というふうに、公益的機能という事を強調し、「公益的機能を有するからこそ市民全体で森林を守っていかなければならない。」というふうな書き込みにしてはどうか。もっと踏み込んだ表現をするならば、「生活の安全が維持できるよう、森づくりは全員で支えるという意識を醸成する。」というふうに、森づくりは市民全体で支えていかなければならないという事を書き込んでも良いのではないか。

防災意識という所が全く重複している書き込みがある。97頁の④と83頁の④であるが、全く同じであると、冗長な感じになると思われるので、工夫が必要である。

(委員) 指標は、毎年チェックし、うまくいっていなければ、施策を見直すという方向でよいか。

(事務局) はい。

(委員) 安全なまちづくり全体としてどのように進んでいるのかチェックするような大きな指標はないか。

(委員) 安全については、自然環境と人為的な関係と両方ある。富山市独自の見通しや施策を持っているが、治山治水事業や道路河川事業など、県との整合性は取れているのか。

(事務局) 国県とは、各部局において常に連絡連携をとり、協議調整しながら事業を進めている。

(委員) 浸水だけでなく、排水対策についても強調して述べてもらいたい。

(事務局) 総合計画事業の河川水路整備事業に排水路の整備や排水ポンプ車の導入等が盛り込まれている。

(委員) 83頁の施策の方向「①浸水対策の強化」を「①浸水・排水対策の強化」にするという事か。浸水は、神明地区に限らず他の地域でも発生している。浸水と排水は表裏一体のものである。

(委員) 問題は、被害を抑える事である。それには、その原因を潰していく施策が必要であり、それを検証するシステムが必要である。

(事務局) 排水機能の強化という事について、文言の追加等検討したい。

(委員) 基本計画事業ではないが、防災ダムの建設も重要である。

(委員) 自主防災組織について、82頁と96頁に重複して書かれているが、もう少し分かるように表現してはどうか。自主防災組織の指標について、目標値が非常に高い。実現可能な指数なのか。

(部会長) 指標の立て方のルール・考え方はあるのか。

(事務局) 部局ごとに設定している。県の計画の指標に合わせたり、市でも行政分野ごとに個別の計画があり、その計画で目標としている率を掲げたりしている。

(事務局) 自主防災組織の結成については、今年度も市民説明会を精力的に開催して組織率を上げるよう努力しているところである。

(委員) 率を上げるだけでなく、実際に動けるシステムづくりが必要である。

(委員) 救急車の現場到着率が基準数値と目標数値が5分30秒と同じ理由は。

(事務局) 全国的にも、富山市でも救急件数が増加している。同じ地区で救急事案が輻輳することがある。他の署から出動することとなる。10年前と比較して、富山市で10秒、全国では26秒遅れている。件数が増加する中、現状を維持していきたいという指標である。

(委員) 地区センターに安全担当職員を配置するとあるが、その詳細は。

(事務局) 18年度に人口の多い3校区に3人試行配置した。地域の危険地帯、災害の恐れのある場所の点検、災害時の住民指導にあたる。将来的には市内の各ブロックに配置していきたい。

(委員) 配置の数値目標の提示はできないか。

(事務局) 今年度の試行結果を検証のうえ検討したい。全校区に配置することは無理と考える。

(委員) 消費生活について、広域になったからこそ、いち早い情報の提供が必要となっているのではないか。相談体制の充実の具体的内容は何か。

(事務局) 相談業務の体制は昨年から充実させている所である。また、高齢者の交通安全教育講座を充実し、高齢者の命と財産を守る内容で行っている。

(委員) 富山市は、主穀作以外の農産物の生産量が全国最下位にあると聞いた。そこで、市民に期待する役割の所に、農家に期待する役割を記載して、土地を大いに活用し、安全安心な野菜どんどん作って欲しい。学校給食に活用することも大切だが、日常生活に必要であることから強く書いていただきたい。

(事務局) 187頁にもあるように農業就業人口が減ってきている。一方で、農業に携わりたいという方もいらっしゃる。

(委員) 消費者に食べていただくため農家の担い手を育てていくことが必要。

(事務局) 194頁に「生産者は安全な地場産品の供給に努める」という記載がある。

(委員) 安全安心の所にも入れていただきたい。

(委員) 項目によって、指標と事業の組み立てが分からないものがある。例えば102頁の指標が野菜作付面積で市場整備が事業となっている。

(事務局) 本来は、施策レベルで指標を設定したい所であるがうまく連動していない部分もある。

(事務局) 検討する指標もある。

(委員) 生産トン数についても考えて欲しい。

(事務局) 野菜については、富山は最下位。出荷額をみても少ない。

- (事務局) 兼業率が高いため、手間のかかる野菜の生産が少ない。
- (委員) エネルギーの有効活用について、事業に風力発電があるが、小水力発電も必要ではないか。風水力発電導入事業としてはどうか。
- (事務局) 各分野で検討しているが、水利権の問題や費用対効果などを総合的に検討すると、具体的事業としてあげる段階にいたっていない。
- (委員) 人口問題について記述がないのではないか。人口増施策についてはどうか。
- (事務局) 176頁に交流人口増加対策や団塊の世代対策、富山を選んでいただく施策、週末居住や季節居住について述べている。
- (委員) 人口自然増の施策を考えていただきたい。
- (委員) この部会ではないが、特に家庭の教育力の向上について考えていただきたい。
- (部会長) 協働部会で話したい。
- (委員) 10年後、市が躍動するような、明るい表現が必要。
- (部会長) あれもこれもとはいかないだろうが、路面電車の拡充により賑わいの方向に向かって欲しいと思っている。
今日の発言を事務局で整理して計画の中で生かされるようまとめてもらいたい。言い足りなかった事は、FAXやメールでお送り願いたい。

4 閉会

(以上)